

# 桑名文化協

令和7年3月15日

第57号

桑名市文化協会  
桑名市中央町2丁目37  
TEL 24-1361  
<https://bunkyo-kuwana.jp>

## 新春六華苑祭

### フラメンコ

芸能Ⅲ部門 岡本早苗

(ルナ・フラメンカ)

新春を迎えた六華苑の洋館の前、石畳の広場でフラメンコを踊りました。会場が野外ということでしたが、天候に恵まれ多くのお客様に足を運んでいただけ、寒さも心配せずゆっくりご覧いただけます。とても有難く思っています。

私は若い頃、一か月ほどスペインでフラメンコを習いつつ現地を旅していました。その途中、アンダルシアの港町マラガで、フラメンコの祭りフェリアに行くわしました。大勢の人々がこの日のために用意したフラメンコ衣装で着飾り、フェリア用に飾られた馬車に乗って町へ繰り出し、広場や通り



でフラメンコの曲『セビジャーナス』を踊ります。

私たちも、野外で踊る六華苑祭では、そんなアンダルシアのフェリアをイメージして、『セビジャーナス』を四曲踊りました。同じ『セビジャーナス』でもメロディも歌もテンポも違います。それぞれの曲想に合わせて振付やフォーメーションを構成し、練習を重ねました。

当日は、有難い事にたくさんのお客様に取り囲まれる形になり緊張もありましたが、私たちも気持ちに合わせて、全員で、三組のペ

アで、デュエットで、アバニコ(扇)を使って、踊りました。私は赤い衣装と白いマントで、新春を寿ぐ気持ちでソロを踊りました。この素敵なシチュエーションで踊れる事を楽しむことができ、大変貴重な経験となりました。

### お茶会

茶華香道部門 山岸智子

(表千家流)

大寒一日前、一月十九日(日)に催されました新春六華苑祭に参加させていただきました。当日は穏やかな日差しの中に、茶席を設けることができました。

天気にも恵まれたこの一日、多くの方にお越しいただき、私ども十六名はそれぞれ分担をし、心を込めてお招きすることができたと思っております。

桑名市文化協会の活動に参加させていただきます。様々な方に会えることのできる一日でございます。

幼子も茶席に入りますと、そのママの手を借りずに箸を取り、懐紙の上に菓子を置く仕草、茶を飲み干す姿の愛らしいこと。また茶席の緩やかな中に安らぎを覚える方、普段着から着物に着替え飲み



に来て下さった方、観光で市外から来られた方も興味をもたれ飲んでいって下さいました。

招くことの喜び、一期一会の楽しさを感じる一日でございます。

床に掛けました軸「日々是好日」は、晴れの日も、雨の日も、楽しい日も、辛い日も、その一日一日が最上で最高でかけがえのないものであるという、中国の仏書、「碧巖録」にある禅語でございます。使いましたその他の道具もよりよい茶席を設けるために、一同で話し合い用意させていただきました。

これからも桑名の文化、そして茶道の発展のために参加していきたいと思っております。

# 令和六年度 桑名市文化功労者表彰を受けて

桑名市文化協会 顧問

荒木敏文



文化協会懇親会にて都山流尺八のメンバーと演奏披露(一番左が荒木顧問)

令和6年10月30日市長室において、緊張した雰囲気の中、関係部長の立ち合いのもと、桑名市長により桑名市文化功労者表彰の授与式が執り行われました。

文化協会設立当初、私の尺八の師匠である大竹先生から事務方の手伝いを依頼され、以来30年余が経過しました。

発足当時は、会員が4000人を超え、特に芸能の部門では、旧市民会館の舞台発表も40団体を超え、楽屋の調整が大変であったことが思い出されます。

また、設立5周年ごとの記念事業にも参画し、柏崎市への訪問、童門冬二さんの講演会、吉之丸での舞台発表、映画「人生フルーツ」の上映会開催等、昨年の30周年記念事業会員参加型の展示会・舞台発表会、また加藤元会長のもとでの国際交流(韓国・ベトナム)等楽しい思い出があります。

私が会長職の時は、コロナが流行し、文化事業が出来ない時期もあり、寂しい思いはしましたが、これからも会員の皆様には健康に留意され、活躍されますことをご祈念申し上げます。

結びに、今回表彰をいただけましたのは、会員皆様のご指導・ご鞭撻の賜物であり、感謝申し上げます。

これからも、芸能I部門の会員として、今まで培った知識と経験を生かし、後方支援に努めたいと思っております。

ありがとうございます。

# 「新桑名市誕生20周年記念式典」を終えて

音楽部門 加藤道擴

(桑名吹奏楽団)

10年前の誕生10周年式典の時も演奏させていただいておりますが、今回もご依頼いただき大変光栄に存じます。

今回の市担当者からの演奏曲目についてのご要望はファンファレと桑名市の明るい未来をイメージできるような曲との事でした。

1曲目のファンファレは、弊楽団の創立25周年を記念して吹奏楽界の巨匠アルフレッド・リード氏に委嘱し作曲いただいた「ファンファレ」よりファンファレ部分を演奏することにしました。日本の吹奏楽曲は毎年1回開催される吹奏楽コンクールの課題曲として出版されたものが数多く存在します。

2曲目は、その中より2018年に課題曲になった「虹色の未来へ」を選択いたしました。名前も意向にあっていますし、作曲者のコメントには「色とりどりで輝かしい未来が待っている」ということをイメージしながら作曲したとありますのでこの日の演奏にふさ



わしいと考  
えました。

通常私たちが柿安シテイホールで演奏する場合、反響板を利用します。舞台は客席から見える部分以外に大変大きな空間

が広がっています。反響板がないと奏でた音が拡散して客席に音が届かなくなってしまう。私たちの演奏後すぐに式典があり反響板を設置できないため、譜面台をさげたり衝立を配置したり、できる範囲でよりよい音をお届けできるよう工夫してみました。

当日は、来賓方や市民の代表の方々等大勢の皆様が来場され盛大に式典が行われ、私たちも気の引き締まる思いで演奏させていただきました。桑名市に桑名吹奏楽団有りと一言だけ言いたかったので、より一層精進して参りますので、どうぞこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

# 桑名市文化協会懇親会

令和7年2月15日、会員が部門や分野をこえて交流する場として、くわなメディアライヴ多目的ホールにて懇親会を開催しました。  
 今年は手づくり懇親会で、役員理事の担当者は企画準備から頑張りました。  
 アトラクション盛りだくさんで、文化協会ならではの懇親会を楽しみました。

華やかに



ルナ・フラメンカ



御年103歳!



ハーモニカ 藤井弘・大野富男

朗々と



桑名相撲碁句会

優雅に



西川流舞踊 紫会

しっとり



オカリナはなみずき

にぎやかに



琴伝流大正琴 みさき会桑名・多度

部門便り 美術部門

## 美術部門展の発表模様

桑名市文化協会会長

森 一蔵

(美術部門 個人会員)

令和6年度の美術部門展では、  
 絵画・美術工芸・書道・陶芸・写  
 真の各部門のグループ・個人の作  
 品が出品されました。昨年同様、  
 くわなメディアライヴ一階多目的  
 ホールで令和6年11月22日〜24日  
 の3日間行われ昨年より100名  
 程多い観客数でした。当番担当者  
 の「これだけの作品展を3日で終  
 わらせるのは残念、延長出来れ  
 ば」の言葉が耳に残りました。皆  
 様の力作が並んだと思います。

新春恒例の六華苑祭は1月18日  
 19日開催され、その準備が17日午  
 後、各々の役割担当者と苑側で行  
 われました。昼間とはいえ各会場  
 は冷えるので防寒対策は必要不可  
 欠です。今後也要注意。美術部門  
 の展示は番蔵棟と云われる4つの  
 蔵を打抜いた建物が会場です。六  
 華苑開苑時博物館学芸員の展示構  
 想に依るものだとも聞いておりま  
 す。

絵画、書道、写真、陶芸、美術工  
 芸、彫刻の作品が出品されまし

た。絵本作家のはっとりひろきさ  
 んが個人会員としてイラストを初  
 めて出品されました。今後の活躍  
 を期待します。会場と人数を考慮  
 して作品は小品気味ですがメデイ  
 アライヴとは違った雰囲気がある  
 様に思いました。

19日に、市長自ら、六華苑に來  
 ていただき一の間の邦楽と美術展  
 の会場を見て回られました。邦楽  
 は、大広間の会場が柿安シテイ  
 ホールより雰囲気合って相応し  
 いと感心されていました。美術展  
 ではじっくり各々の作品を鑑賞さ  
 れる姿に、解説を加えると領いて  
 おられました。御忙しい中時間を  
 割っていただいたのは良かったと  
 思います。



第33回桑名市芸術文化祭 美術部門展(くわなメディアライヴ)

# 桑名市民芸術文化祭を終えて

趣味教養祭 きものを楽しむ

趣味教養部門 増本郁子

(一社)装賀きもの学院

装賀きもの学院は、きもの文化及び礼儀作法、茶道など、和の文化を広く学んで活動をする事ができる学院です。

きものを楽しく着たい。その思いから、今回は気軽に楽しめる半幅の帯結びを展示しました。半幅帯というと、ゆかたに結ぶちようちよ結びというイメージが強いと思います。最近の半幅帯は幅も広く、そして長い帯が多くなってきました。そこで、おたいこ風に結んでみたり、ひだや羽根を取って変化を持たせ、飾りひも等で結んだ作品を展示しました。小紋のきもの、無地のきものなどに結んで、お買いもの、お出掛けなどしてみませんか。お客様からは、これが半幅帯なのと興味を持って見ていただけたと思います。

折型は例年通り、お正月に使っていただく祝箸包み、お年玉包みをしていただきました。毎年、趣向を凝らして発表会をしておりま

す。

来年も足を運んでいただき、きものを好きになっていただき、きものを着てみたい、習ってみたいと思われた方は、是非ともお問い合わせください。お待ちしております。



様々なきもの着こなしを前に会話が弾む



# 吟剣詩舞道の祭典

芸能II部門 横山甫洲

(桑名市吟剣詩舞道連盟)

私どもの部門は、「吟剣詩舞道の祭典」と銘打ち令和六年十一月三日に柿安シテイホールにて催行しました。当日は天候に恵まれ、市民の皆様も多数ご観覧いただき誠に有難うございました。

当部門は、吟詠関連から岳風流並びに関心流、剣詩舞関連より朧明流並びに天辰神容流の四団体で構成されております。

開催当日は午後一時より、総数四十八の演目を延べ八十名近くの人員で演じました。独りで詠う独吟、多数で詠う連合吟、吟詠部門からは映像による二題の構成吟、さらに剣詩舞関連からは剣舞、詩舞、群踊と様々な趣向を凝らした内容としました。

会員は、この祭典での演目を初夏の頃に決め、準備や練習を重ねてまいり、開催目前になると予行演習や時間配分など細部に亘っての調整を行いました。当日は役員や会員が一丸となり祭典を進め成功裏に納めることができ、会員一同安堵と達成感に浸る事ができました。

映像に詩が映し出され吟詠をより深く味わえる



吟剣詩舞道は、日本の長い歴史の中で育った文化であり、礼節の大切さを伝え、詩文に込められた考えや心情を理解し表現する伝統的な文化です。また、大きな声で吟詠をしたり、剣詩舞で全身を動かしたりすることにより、健康増進には大変良く、他方趣味を通じて仲間の形成にも役立っています。この活動が日本の伝統文化を継承していくのに少しでも寄与していれば幸いです。

# 令和7年度 月釜日程表

開催時間 午前10時～正午、午後1時～午後3時30分

(入場受付は午後3時まで)

開催場所 六華苑 離れ屋

呈茶券 前売券 1,000円

六華苑入苑料込・茶道各流派師範宅・六華苑で販売

当日券 700円

(六華苑入苑料別)

(入苑料：高校生以上460円、中学生150円)

◆最新の情報は、桑名市文化協会ホームページをご確認ください。

◆参加の際は、感染防止対策へのご協力をお願いします。

◆体調のすぐれない方は参加をお控えください。

| 開催日           | 担当流派  |
|---------------|-------|
| 令和7年 4月20日(日) | 煎茶松風流 |
| 5月18日(日)      | 遠州流茶道 |
| 6月15日(日)      | 茶道裏千家 |
| 9月21日(日)      | 表千家流  |
| 令和8年 1月18日(日) | 表千家流  |
| 3月15日(日)      | 茶道裏千家 |

## お問い合わせ

桑名市文化協会事務局

(桑名市観光課内)

TEL 0594-24-1361

ホームページ

<https://bunkyo-kuwana.jp>



## 令和7年度 桑名市文化協会 育成補助金募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して、補助金を交付します。令和7年度の育成補助金を申請される方を募集いたします。

○補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、令和7年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で、令和5年度・令和6年度に補助を受けていない会員。

○補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

○応募の方法

文化協会ホームページ掲載の申請書式をダウンロードして必要事項を記入の上、同事務局へ提出申請する。紙の申請書が必要な場合は、事務局窓口にて受け取り可能。

育成補助金書式の

ダウンロードはこちら↓



○応募受付期間

令和7年3月3日(月)～

令和7年3月31日(月)

(令和7年4月1日～令和8年3月31日までの実施事業に限る)

※令和6年度より運用規定・Q&Aを改定しました。

## 第33回 定期総会のご案内

〔日時〕令和7年5月11日(日)

午前10時から

(受付は午前9時30分から)

〔会場〕桑名市パブリックセン

ター 大研修室

\*各部門から代議員の選出をしていただきます。

## 令和6年度

### 新入会員の紹介 (敬称略)

(3月1日現在までに入会の会員)

社会文化部門

仏教文化研究会

美術部門

中村 柏芳 (個人会員)

音楽部門

トインポップスオーケストラ

音楽部門

大野 富男 (個人会員)

美術部門

はっとりひろき (個人会員)

## 文化協会へ新入会員 大歓迎♪

文化活動を行っている団体さん、個人の方、文化事業に興味のある方、一緒に桑名市の文化芸術活動を盛り上げていきませんか？  
お問い合わせはお気軽に♪

# 文協文芸

## 【文学部門】

### 詩 〈現代詩やまぶき〉

#### みんな行く道

岡本妙子

ひとりぼっちの部屋に  
ぐつとにぎりしめる淋しき  
家に帰りたいと念じて  
合わせる手が仏様の手のように  
冷やかか  
なるようにしかならないと思つて  
生きる事より  
死ぬことのむつかしさを知つた  
思いなおして  
もう少して亡夫に逢えると…  
なかなか入れない老人ホームに  
入れたことを感謝しようと  
四階のベランダに立つて  
夫の名を呼んで見た



#### さよなら

堀川孝子

兄の余命を告げられて  
病室に行く  
点滴の管と  
テレビのイヤホーンのコードを  
絡めて  
目をつぶっていた  
軽く肩に触ると  
覆っていた雲が  
流れていったような目をして  
―会いたかった と言つ  
ぶあつい木の蓋を押し上げ  
ぶくぶくと吹き上がるあぶく  
ご飯の炊き上がる匂い  
母が近くにいるような気配がした  
―誰にも言うな  
と 兄が言つたから  
―みんな変わりなく元気です  
と 義姉が言つたから  
正月にも帰らなかつた  
節くれたつた手をなでると  
温かな掌で  
握り返してくれた

数日して兄は亡くなった  
じゃあね とも言わずに  
手を振ることもなく

私も さよなら を言わなかつた  
―と温かな空気が流れ  
立つていられない背中を  
支えてくれていたのを感じたから

#### クイーン・エリザベス号

安田治三

彼は明日の同窓会に出席しない

テムズ川を遡り遊覧船が  
ロンドンブリッジを潜るころ  
私にはジョー・スタッフォードの  
歌声が聞こえてくる

冬のロンドンの町並みは  
引き締まっていたいぶし銀のよう  
トラファルガー広場も落ち着いて  
人が歩いていて

幼い頃はアメリカに憧れていた僕  
学校で迷わず豪華客船  
「ユナイテッド・ステーツ号」の  
絵を描いた

一方彼は世界最大の

「クイーン・エリザベス号」を  
描き互いに競争心を燃やした

彼の「クイーン・エリザベス号」は  
写実的で上手かつた

そして当然のように表彰された

その時から私は「イギリス」を  
意識し始めたのかもしれない  
西洋に目をやるようになった  
あれから再会する機会もなく  
時は過ぎていった

一九七五年

「クイーンエリザベス号」は  
香港で解体されたという

還暦を過ぎて数年後 風の便りで  
彼が亡くなったことを知つた

もう二人の絵の行方も分からない  
いつも私の前を行く  
優等生だった彼  
もう再び彼と話も  
できなくなつてしまつた

一人ぼっちの

「ユナイテッド・ステーツ号」は  
「ブルーリボン賞」を取つたが  
フィラデルフィアのドックに  
今も係留されている

## 俳句 〈俳句を学ぶ会〉

### 元氣をもらった句

竹村一雄

昨年秋に後期高齢者保険証が届いた。幸い体も特に悪いところはないが、全体に機能低下は否定できない。さてさて、残りの人生、いかに生きるか？などと考えていたところへ、次の句にであった。

立や年既に白髪のみどり子ぞ

吉川五明

還暦を迎えた作者が、自分を白髪頭の新生児になぞらえ楽しんでる様子が目に浮かぶ。

そういうえば、我が家の初孫は、私が還暦の年に生まれ、いま十五歳。先の俳句にあやかると、私も今年十五歳で正月を迎えたことになる。

誰しも、もう一度人生をやり直すなら、と考えることがある。やはり高校生あたりが一番おもしろそうだ。そこで一句、

還暦を過ぎて十五の春迎え

『余計な分別のある』青春はどんなものになるか楽しみだが、なにか新しいものに取り組んで二度目の青春を充実したものにしたい。三度目はないので。

ちなみに、五明は江戸中期に産まれ七十三歳で没。

## 春夏秋冬

安田治三

(新年)

初日の出気持ち新たに社へと  
初詣母の手をとり石段を  
善哉に眼鏡曇るどんど焼き  
初笑い声高らかにとなり人  
年明けの庭に届く年賀状

(春)

道端にたんぽぽ咲いてほつとして  
春霞西山薄く遠きかな  
あちこちと若緑萌え我も生き  
里山の朝にさえずる鶯や  
学び舎の金次郎に桜舞い

(夏)

雷鳴がドドドドドンと古都の空  
金魚鉢飛び込みたいと昼下がりに  
繰り返し暑し暑しと言うなかれ  
夏の日の影を探して駐車場  
冷奴万年履いて獣道

(秋)

赤とんぼ夕焼雲と友達と  
秋祭り社に集う村びと達  
秋の空何を描くか白い雲  
竹ぼうき野分の後のせわしきや  
十五夜いずこで見るとあの人

(冬)

谷川の石にくつろぐ落葉かな  
冬深し木肌並ぶ樺木立  
師走にも弥勒菩薩の微笑よ  
雪深し真白き障子凜として  
鍋奉行ここぞと出番年の暮

## 短歌 〈個人会員〉

### 三四郎の遠吠え④

#### 短歌物語

伊藤智之

私は、柴犬の三四郎。

歳のせい、組織における役割について、いろいろ悩む。

地域の住人家族の意義である。

犬でいえば、たとえば役割として、その可愛さが人間社会のつなぎになるとも考えられる。

その様を歌人のパパが歌にしていることを三四郎は覚えている。その歌は、固有名詞の歌だ。

かわいがる犬もときには笑うことあり

そんな町にパパの妹夫婦が住んでいるが、子供のいないこともあり、私の相手をしてくれていた。

その叔父さんが、急病で入院した。コロナ騒動のなかの入院で、叔母さんも、見舞いもままならず、不安感が顔に出ていた。

そこで、パパから提案があり、病院へ車の運転、日用品の買物等を手分けされ二人に喜ばれた。

三四郎は思う。家族とは良いもの、自分の役を少し分かった。一ヶ月程の入院で、退院の決まったある日、我が家の歌会が開かれた。叔母さんが中心だ。

①向かい合う雨戸を開ける刻を決め日々挨拶をくれし人あり

★パパ・嬉しい歌だね。

☆叔母・多くの人に元気を頂いた。おかげで、買物、励まし等近所の人、兄さんの家族にさんちゃんに心から感謝しています。

歌会は、パパの歌で締めた。

②人生は全て足し算職業も遊びも学びも怪我も病気も

三四郎はこの歌会を聞きながら思った。家族や地域の構成員としての役割は存在そのものにある。そこに加えるもの「お互いを思いやる心と行動」があるといい。

★ママ・パパの人生の歌、三句目からの畳みかけがリズムミカルで、力強く調の良い歌に仕上がっている。

最後に叔母さんから追加の歌がだされた。

③夫の手を握り返せばなお強く  
病院前は六月の風

★全員・全快おめでとうございます。今度は地域の皆さんにお返しですね。

# 桑名地名あれこれ(32)

宝殿町と新宝殿町と新宝殿町という二町内があります。

江戸時代の城下町にある町名としては珍しい名ですが、持統天皇に由来します。西暦六七二年壬申の乱で大海人皇子と鸕野讃良皇女(後の天武・持統両帝)が桑名を通ったのは伝説ではなく史実で、約二カ月もの間持統帝が安心して滞在できる地でした。その持統帝に關係する宝物神庫であったのが宝殿社・延喜式内佐乃富神社で、ほぼ現在の地藏寺公園のところ★後に明治41年9月14日に今一色の三崎神明社(現在の堤原・北桑名神社)へ合祀されたときは、宝物一つずつを奉持して運んだところ宝殿町と堤原を二回り半もする多くの数であったそうです。

社会文化部門  
(個人会員)

大河内 浩

住吉浦から南に二〇〇m余り下ったところから西へ、宝殿町と新宝殿町という二町内があります。

江戸時代の城下町にある町名としては珍しい名ですが、持統天皇に由来します。西暦六七二年壬申の乱で大海人皇子と鸕野讃良皇女(後の天武・持統両帝)が桑名を通ったのは伝説ではなく史実で、約二カ月もの間持統帝が安心して滞在できる地でした。その持統帝に關係する宝物神庫であったのが宝殿社・延喜式内佐乃富神社で、ほぼ現在の地藏寺公園のところ★後に明治41年9月14日に今一色の三崎神明社(現在の堤原・北桑名神社)へ合祀されたときは、宝物一つずつを奉持して運んだところ宝殿町と堤原を二回り半もする多くの数であったそうです。



★宝殿社は新屋敷地内にもありました  
※江間政発『桑名郡志』の原典どおり  
承応四年は四月十三日に明暦と改元

江戸時代初め、初代桑名藩主の本多忠勝による慶長の町割りでは宝殿社にちなみ宝殿町が形成されました。当時浄土寺境内の藪下と呼ばれた、宝殿町の西北一帯は、半世紀後「承応四年(一六五五)四月二十五日宝殿町新屋敷被下」とあり新宝殿町ができました。※両町は昭和三十年代から合同で石取祭を行い、伊勢湾台風後に現在の祭車を長島町小島から購入しました。もともと桑名市街のあたりから長島輪中を二転三転して戻った桑名市街最古の祭車です。両町は「神寶」の雅名で参加、昭和55年から宝町の祭町名です。

ご賛助いただいたいております  
特別会員の皆様  
3月1日現在  
(五十音順)

- アートスペース美園様
- 医療法人 桑名病院様
- 医療法人 誠会山崎病院様
- 魚重様
- お菓子処「和」様
- カネソウ株式会社様
- 株式会社 朝日鑄工所様
- 株式会社 歌行燈様
- 株式会社 グランビル様
- 株式会社 山山水園様
- 株式会社 水谷精機工作所様
- 株式会社 レイ・ステージ桑名様
- 木村洋子様
- Green Beatrice Co. Ltd.様
- 桑名シティホテル様
- 桑名三重信用金庫様
- 在日本大韓民国国民三重県桑名支部様
- 茶道裏千家 丹羽宗俊様
- 中央不動産株式会社様
- 花新江場中店様
- 花乃江乃舎様
- 光精工株式会社様
- ヒルカワ金属株式会社様
- 三重精機株式会社様
- 森田フードシステム株式会社様
- 諸戸コーポレーション株式会社様
- 有限会社 大発商様
- 有限会社 茶茂会様
- 有限会社 丁子屋様

日頃よりご協力いただき、深くお礼申し上げます。

## 編集後記

桑名文協第57号をお届け致します。日本は情緒ある四季で温暖な気候と言われてきましたが、近年この表現が過去のものとなりつつあるようで、今年も春風駑蕩の好季節は束の間かも知れません。

今年は早くも次回七里の渡し場の大鳥居造替、神宮鳥居の移設に向けての始まりで、遷宮御用材を石取祭車30台ほどで奉迎します。石取祭に見られる賑わいと情熱が桑名市の文化芸術活動にも及んで次代へと受け継がれて行く、本紙がその交流の場として愛読されることを願っています。

(大河内 浩)



- 広報担当副会長 安田 治三
- 広報担当副会長 岡本 早苗
- 委員 文学部門 竹村 一雄
- 美術部門 土屋栄美子
- 音楽部門 水谷 直美
- 芸能I部門 杉野さおり
- 芸能II部門 村田 道昭
- 芸能III部門 堀田佳世子
- 演劇部門 相原 千景
- 茶華香道部門 大嶋 敬子
- 社会文化部門 大河内 浩
- 趣味教養部門 加藤 誠